

市の「施設再編計画」にもの申す！

—町田の未来を考える市民、大集合—

日時：2017. 7. 29（土） 14:00~16:30

場所：町田市民フォーラム 4F 大2学習室

参加人数 30名 会員 10名 計 40名

1. これまでの経過説明 (藺田)

市への意見提出。まちだ未来の会として、「町田市公共施設再編計画への10の疑問」を提出した。

2. 請願について (守谷)

先回の学習会で出された13枚の意見書は、市に提出し、その内容も組み入れて

「市民に根ざした「公共施設再編計画」の策定を求める請願」を作成。署名1万人を目標に署名活動を開始し、9月議会に提出したい。

鶴川図書館の存続を求める請願と署名活動は、すでに開始された。

これから市民文学館についても、存続にむけての請願を原町田の自治会が中心となって早急にとりかかる予定。

いずれも、できるだけたくさんの署名をお願いしたい。

3. スピーチシャワー

(11名の各団体のかたに、5分間もの申してもらおう)

① 図書館活動をすすめる会 (手嶋)

機関紙「知恵の樹」月1回発行。

市の「新5か年計画」で、図書館身近な場所での生涯学習を重点項目に、図書館を6館から8館に増やし、さらに増やしたいとしていたところ、「5か年計画17-21」では、その見直しとして、再編推進が出て、図書費も年々減少、多摩26地区で下から2番目に転落してしまった。今、鶴川、さるびあ図書館が再編対象になっているが、策定計画ではあきらかにされていない。

② 横浜里山研究所 (松村)

市の相原での説明会に参加し、はじめて計画を知った。内容があいまいなので、市へ意見書を送った。あらたな価値の創出がなになのか、あいまいである。

地域の多様性を加えるべき。子育てのため、教育環境が大事である。

③ 柿の木文庫 (庄司)

大蔵町で33年前に、現在95歳になる志村さんが敷地内にたてた家庭文庫。読み聞かせやこどもたちへ本の貸し出しをする活動をしており、志村さんは今も元気に毎回準備をし

てくれている。市は明るい町づくりとして、スポーツをもちたてようとし、子供たちもスポーツ選手に憧れている様子がみられるが、その時期は短い。高校に勤務していて、スポーツから離れて何をしたいか困っている生徒をいっぱい見てきた。学校図書館に生徒はいず、活字離れは深刻。自分で考える力を育てないといけない。子供たちが気軽に行ける鶴川図書館を奪ってはならない。さるびあ図書館も毎回100冊も団体貸出をしてもらっていてありがたい存在だ。

④ 雑学大学 (佐野)

対象になっている施設は、意味があって作られたものであり、存廃についても市民に知らされていない。館長に聞いてみると、もうすでに始まっているものであり、言ってもしょうがないと言う。今町田市でなにをすべきか、みんなで議論することが必要だ。個人として、サッカー場に45億使うよりも、こどもたちの給食をただにしてあげたらと思う。指定管理がお金の問題でされるなら、自治会や老人会やいろんな人のボランティアを活用したり、方法は考えられるのではないか。

⑤ 原町田4丁目第二町内会・文学館通り役員 (土屋)

町田市文化発祥の地として、市民文学館がつくられ、去年は10周年を迎え、文学館祭りには3000人が集まった。文学館を考える会を立ち上げた。

文学館は、連句の催しに全国から専門家が来て、連句のメッカとなっていて、認知度は高くなっている。これから、原町田3丁目町内会も一緒に存続を求める請願をすすめようとしている。

⑥ 町田連句を楽しむ会 (仏淵)

地域文化として根づくことをめざしてやっている。他市からくる人には、「文学館があっていいね」と言われる。

「文学館がある町は、なにかが違う。」と前寺田市長が言ったことを記憶している。

⑦ 史考会 (安藤)

我が家の家系図を調べるため、資料をさがしに都の中央図書館までいったが、町田市中央図書館を知って尋ねたところ、スタッフの対応がよく、うれしかった。その後、市民大学で、文化財、町田の郷土史を勉強した。

⑧ 町田の学校図書館を考える会 (清水)

17年前、図書指導員を配置する運動(図書館活動をすすめる会)により、学校に有償ボランティアが配置されることになった。校長が採用、学校間で格差もみられた。現在では、町田ともう1市だけがやっている。教育委員会との面談で、10年後の学校図書館のビジョンを知らせてほしいと要望しても明確な返答はなく、司書をおくことを請願した。市の今回の意見募集の呼びかけに、「いままでではなく、、、」という文言があり、ひっかかった。いままで積み上げてきたことを大事に考えなくてはならない。

⑨ 建築家 (大宇根)

わざわざ建築家と書いたのは、資格に対する認識を伝えたいから。日本の法律では、たんに設計の技術者とされているが、欧米では、芸術の領域の資格としてとらえられている。建築は、アートであることを前提にしたい。

文学館の設計に携わり、今、存続が危ういことを聞いた。公共の仕事を大半行っているが、まず、合意形成の手順を踏むことが欠かせない。多様な意見がでたりする。どうしたらまとめられるか、今後の課題をだし、ぜひみんなであうまくやりたいと思っている。

⑩ 革新町田市民の会 (木原)

福祉の町田から、市民切り捨ての町田になった。

自身は、教員として勤めた忠生6小が廃校になり、次に勤めた本町田西小が廃校になり、次のみどり小も廃校になった。みどり小は1クラスでいい教育活動をしていた。なぜつぶさなければいけないか、怒りをおぼえる。廃校になった小学校の団地は、その後さびれ、高齢化していった。この学校つぶしのさなか、豪華な市庁舎が建った。公共施設をつぶして浮いたお金を何に使うのか？使い道が間違っている。旧市役所あとのシバヒロは、鍵がかけられて入れず、向かいの町田一中はグラウンド工事をしていてグラウンドが使えないが、山崎までピストン輸送している。シバヒロはなんのためか？

⑪ まちだ市民大学市民プログラム委員 (杉本)

1993年公開し、年間700人が受講している。ある講座の内容について、大西議員が議会で、偏向しているから廃止せよと恫喝したことから、事実上廃止になった。プログラムは、職員と市民プログラム委員がいっしょに作っているが、職員は以前教員免許や社会主事の資格を持った人だったのが、今は事務方の人になって、わからないことが多くなった。

ここで、ゲスト発言。

小島資料館 (私設資料館として50周年) (小島さん)

合併・統合の方向は間違っている。お金はどっちにまわすかの問題。

自然、歴史、産業を大切に。

元教育委員 (井関さん)

大学にいた時、大学紛争があり、その時の職員会議を思い出す。現状に向かいあうことなく、すぐ対策を！という人がいた。今の市の計画にびっくりしている。市長はどう評価しているのか？ 計画の中身を公開しないであいまいにしているのが1番いけない。

4. スピーカーを囲んでテーブル討議 (30分)

テーブルごと熱のこもった討議がされた。つぎは、内容の報告。

文化とスポーツへの施策を対立させるのは得策でない。スポーツ系の人にも巻き込みたい。市民の意見を集約しないといけない。町づくりをもっと考えよう。若者が逃げていかない、住み続けなくなる町に。にぎわいというのはなにか？遠くから来る人に向けるものではない。郊外の良さ、50年、100年継続する文化施設を。などなど。

5. 次回への提案 (守谷)

8月中旬に議員との意見交換をしたい。日程は、交渉後、ヤフーブログ「まちだ未来の会」にアップ。

○参加者から、9年間の計画を手に入れてほしいと要望あり。

○8月22日策定委員会が開かれ、市民の意見書についても討議されるので、ぜひ傍聴を。(増山)  
記録(庄司)